

たまプラーザの魅力ってどんなところだろう。桜や櫟、ユリノキなど、街路樹が立ち並ぶ景色やログハウスのある公園。近代的な駅舎に直結したたまプラーザテラスや東急百貨店。都会と自然が調和した街の魅力に加えて、「人と人をつなぐ」個人商店の下町らしさは、この街の魅力を語る上で外せない。「毎日の衣・食・住をもっと心地よく、面白く」そんな、たまプラーザのライフスタイルを提案する商店の主たちが、ここにいる理由を語ってくれた。



だから、たまプラーザ。

～僕らがここにいる理由～



AL SOLE (アルソール)
登内 巖 (Iwao Tonouchi)

1987年太陽企画(株)入社。TV-CMプロデューサーとして広告の立場から時代と共に変遷するファッションを見続け、自身でも体感。2019年～洋服のフィッティングを学び、修行を励行。前オーナーからALSOLE(アルソール)を承継し、2023年春から「洋服お直し&オーダーメイドAL SOLE」として、たまプラーザセンタービルで開業。

▶アルソール店舗情報はP7

株式会社フリーデザインボックス
西村 巖 (Iwao Nishimura)

1988年～2013年(株)リクルート在籍。2013年家づくり支援団体「田園都市建築家の会」に加入。2015年不動産会社「株式会社フリーデザインボックス」を設立。2016年田園都市建築家の会・家づくりCAFEを新石川から駅前通り商店会に移転/2022年(株)フリーデザインボックスを鷺沼から駅前通り商店会に移転。

▶フリーデザインボックス店舗情報はP6

tiare bread (ティアブレッド)
凝地 展 (Atsushi Kogochi)

2003年～都内のケーキ店にてパティシエとして勤務。二つ星レストラン「アルジェントASO」、ベストブライダル系列の式場で働く。2019年～自由が丘の「baguette rabbit」でベーカリー修行を積む。たまプラーザの「ラ・ベルコリーヌ」のオーナーとご縁があり、2023年12月同店舗地に「tiare bread(ティアブレッド)」を開く。

▶ティアブレッド店舗情報はP7

人と繋がりがあった「ラ・ベルコリーヌ」さんが閉店されることを知りました。もっと小さな規模のパン屋さんでもよかったのですが、実はやりたいことがたくさんあったんです。元パティシエなので、パンだけでなくケーキも出したい、おいしいコーヒーも淹れたい。お菓子教室・パン教室などイベントをやって地域のみなさんに喜んでほしい。そう考えると、ラ・ベルコリーヌさんの店舗は決して大きすぎることはいかないかと、と出店を決めました。

この街の魅力ってどんなところにあると思いますか？

西村僕は、たまプラーザの魅力は、住人が街に対する愛着を持っていることだと思っています。東急による計画的な街づくりが行われて40年経って、街の高齢化が進んできているという課題がありますよね。そんな中、住人の方が課題を感じて主体的にまちづくりのイベントに参加されている印象があります。活動を引っ張るキーマンが何人かいて、そこに人が集まってムーブメントを起こす。リードする側もされる側も街に対する愛着があってこそですね。僕らも老朽化した遊歩道を綺麗にしたり、美しが丘小学校の脇にある100段階段をカラーリングしたりと、街の環境要素である「衣食住」のなかの「住」の部分にフォーカスして活動しています。

登内僕は、住人の文化度の高さを感じます。もちろん、決して当人たちは文化度が高いなんて言いませんけど(笑)。職業柄「衣」の観点からみると、年齢を問わず、身なりがキチンとしている女性が圧倒的に多いですね。オシャレというか、自分に合う洋服の選び方が分かっているし、サイズもフィット



している。10年前のブランドのスカートを持ち込んで「シルエットを活かして、私に合うワンピースを作ってくれない?」とオーダーする、小粋なお客様がいらっしゃるんです。丁寧に暮らし、日々を楽しんでいる感じが実にたまプラーザのお客様らしい。これは凝地さんがおっしゃった「ゆとり」に共通するところだと思いますね。仕上がりや提示した料金に関して細かいことは言わない一方、不満があったらきつと二度と利用してくれないだろうな、というプレッシャーもあります(笑)。

凝地確かに、接客していて露骨なクレームを入れるお客様はいないですね。また、うちは原材料にこだわっているので料金設定を高く感じる人もいるかもしれませんが、そこも納得してくれている方が多いのかなと思います。「美味しかったです」と言ってくれるお客様がいっぱいいる。人気のパン屋さんが集合しているのも街の魅力ですね。

西村 良い街には良いパン屋さんがあるっていいですね。

今後の課題を教えてください

西村 この街には「衣食住」だけでなく「衣・食・職・住・遊」といった多彩な分野に渡って、おもしろいブレイヤーが数多く存在します。それらが集まる商店街は、駅前の商業施設と住宅ゾーンを繋ぎ、より豊かな生活基盤をつくる重要な役割を果たしているんです。そのためにも商店が連携しあってこの街を盛り上げて、人の流れをつくるのができれば、もっといい街になると思っています。

凝地 個人レベルでいうと、今後はもっとお店のイベントをやってお客様に楽しんでもらいたいと思っています。駅から東急百貨店を抜けた良い場所にお店があるので、うちが目立っていれば若い人たちがこちらに流れられるかな。暖かくなったら路面側

たまプラーザで開業したきっかけを教えてください

西村 前職で新人編集者だった頃、住宅雑誌の特集「神奈川の住んでみたい街ランキング」の2位として取材したのが美しが丘だったんです。駅前から北西に延びるユリノキ通りを挟んで整然と街が創られていて、緑豊かで素敵な街だなという印象がありました。それから22年後、住宅関係の仕事をしていた仲間が、家づくり検討者をサポートする事業「田園都市建築家の会」をたまプラーザで開業したんです。会社を辞める前から「ここに合流したら面白そうだな」という直観があって、その通りになりました(笑)。それがこの街とご縁ですね。入ってみたいところ、面白い街だった。

登内 僕は隣駅のあざみ野に居を構えて30年なので、たまプラーザの良さはよく知っていました。もともと洋服が好きで、「洋服を体に合わせて直してくれるお店が近くにないけど、きっとニーズはあるよな」と確信していました。そして何より、大好きな街で色んな人と出会えたいなと。実は、優秀な縫製師が田園都市線沿いに何人かいるんですよ。洋服直しの商売をする中でそんな仲間と共にいい仕事をした。自身の商売の発展の喜びと共に、地元を豊かにしていく喜びをこの街で感じたかった、というのが動機です。

凝地 僕のたまプラーザの印象は「柔らかくてゆとりがある」。ほかのオシャレと言われる街に比べても、いい意味でブランドを振りかざすようなセレブ感はなく、歩くスピードが落ち着いているように感じます。独立したら田園都市線沿いでお店を出したいなというのは考えていたので、この空気感をまとうたまプラーザで出店できたらいいな、と思っていたんです。そんな時に知

の窓を開けて、カフェスペースをオープンにする予定です。

西村 あの場合でおいしいコーヒー、飲みたいです。

登内 お客様が流動してくれること、大切だと思います。1人で頑張っても限度を感じる所はある。それこそ衣食住のように、さまざまな角度からお互いを補填し合うようにショップカードを置きあったり、商店会でライブをやったり、個々が連携することでお客様が街を回遊する。実は、目に見えない「お店同士の信頼感」が一番大事で、その雰囲気をお客様に感じてもらえたら、もっと良い商店会になれると思うんですね。まずは商店会の結束を強めるために飲み会の開催を希望します(笑)。

西村 凝地 いいですね! ぜひ。

たまプラーザの魅力は、住人が街に対する愛着を持っていること (西村)

丁寧に暮らし、日々を楽しんでいる感じが、たまプラーザらしさ(登内)

食のイベントを通じて地域の人が喜んでもらいたい(凝地)